

# れんごう鳥取



2020年9月1日  
No.9



発行・日本労働組合総連合会鳥取県連合会  
発行人・本川博孝 編集人・森本哲司  
〒680-0847 鳥取市天神町30-5  
TEL(0857)26-6605・FAX(0857)26-6615  
E-mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp  
ホームページ: https://jtuc-tottori.jp

## コロナ禍で労働組合はどう変化し対応していくべきか学ぶ —「労組リーダーセミナー」に受講生36人参加—



講義①リモートによる講演  
—モニター越しにも山根木総合局長の「熱」が伝わってきた—

講義②「事例報告」の様子  
写真左/谷本執行委員



あいさつする本川会長

講評する  
森本広報・教育局長

連合鳥取は8月29日(土)、「2020労組リーダーセミナー」を倉吉未来中心において開催し、総勢52人(うち女性7人・参画率13.5%)の参加がありました。コロナ禍により3月以来、集会等の中止や延期が続いているましたが、今回のセミナー開催にあたり、検温、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保、換気等の感染予防を徹底するともに、初のリモートによる講義など工夫をし、労働組合としてどのような対応をしていくべきか共通認識していくセミナーとしました。

■ 本川博孝会長あいさつ  
9月1日施行の「鳥取県クラスター条例」にふれ、「感染者への差別は断じて許されない。そのような当たり前のことを見事で規制しなければならない社会を労働組合として変えていこう」とあいさつしました。

■ 講義①  
「コロナ禍から見えた課題と取り組み」  
講師：連合総合運動推進局・  
山根木晴久総合局長

※山根木総合局長の自宅と会場を  
リモートで繋ぎ講演

【テーマ】  
①働く仲間・生活者の状況  
②新型コロナウイルス感染症の  
拡大を受けての取り組み  
③連合がめざす社会像  
『働くことを軸とする安心社会  
—まもる・つなぐ創り出す—』

■ 講評：森本哲司広報・教育局長  
進行：谷本 寛執行委員(広報・教育局)  
事前に各産別から報告いただいた「コロナ禍におけるBCP(事業継続計画)と労組の取り組み」事例を紹介するとともに、4産別5単組の受講生から報告を補強する発言をいただきました。

労使が協力してコロナ禍を乗り切るために、労使が信頼関係にある「健全な労使関係」が不可欠で、先輩が構築した健全な労使関係を引き継ぎ、次代に繋げていかなければならぬとまとめました。その一方で、現地・現場、対面でなければ伝わらない「アノログ」の必要性も融合させ、「元の生活に戻るのではなく、『ウイズコロナ』に対応した新たな時代を創造しなければならない」と述べ、更に冒頭の本川会長のあいさつを引用し、「理不尽な格差」と「排除の論理」に立ち向かおう」と強く訴えました。

■ 講義②  
「非常時に労働組合が果たしてきた役割」

自身が組合役員になつた経緯や、役員になって気づいた事など笑いを交えながら話し、併せて、失業率や求人倍率、生活動開始世帯数の推移、コロナ禍における労働者の不安などを数値化してわかりやすく説明されました。また、実際の労働相談の内容から、「最大の課題は『雇用』である」と訴えました。

続いて、イベントのWEB配信状況や組織内外の支え合い・助け合い運動「ゆふあん」などを紹介し、WEB配信など「デジタル」の活用と、より多くの組合員に拡散する事の重要性を訴えました。

連合鳥取2021年度政策・制度要求(34項目)を  
平井鳥取県知事に手交(8月17日(月))

詳しくは別紙を  
ご参照ください

## 働く仲間の支援のために役立てて！－鳥取県へ寄付金を進呈－

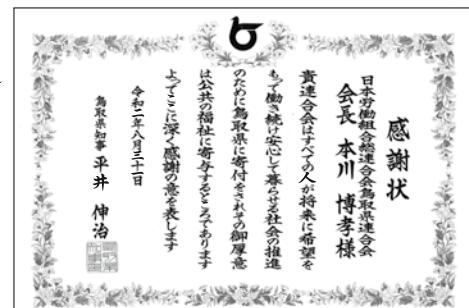
連合鳥取が1990年に結成されてから丸30年経過しました。この間、私たちは経済や社会状況が目まぐるしく変化する中、すべての働く人々の雇用・労働条件の維持向上、暮らしの安全・安心にかかわる政策提言、労働組合づくり、災害ボランティアなど様々な取り組みを行ってきました。

そして、「働くことを軸とする安心社会－まもる・つなぐ・創り出す－」を「連合結成30周年」のコンセプトとして取り組んでいる中、「新型コロナウイルス」が発生、感染拡大が拡がり、鳥取県内においても大きな経済的影響が発生しています。

連合鳥取は、コロナ禍により解雇等雇用調整を余儀なくされる方や、最低賃金近傍で働いている仲間、雇用不安、生活不安、将来不安を抱えているみなさんの支援の一助となるよう、鳥取県に対し寄付金(100万円)を進呈することを決定しました。

そして、8月31日(月)、鳥取県庁で本川博孝会長から平井伸治鳥取県知事へ目録を手渡し、コロナ禍で苦しむ働く仲間への支援、子ども支援、生活困窮者支援に役立てていくいただくようお願いしました。

それに対し、平井県知事から「子どもの居場所である子ども食堂はコロナの波で厳しい局面にあり、そこに光をあてていただいた。子どもの未来のため、社会のために役立てる」とお礼の言葉と「感謝状」(右)が贈呈されました。



## 安心して働きたい！ 安全な鳥取県に住みたい！ －鳥取県知事に「2021年度政策・制度要求要請書」を手交－

8月17日(月)、鳥取県庁において、連合鳥取の本川博孝会長から平井伸治鳥取県知事に「2021年度政策・制度要求要請書」を手交しました。

本川会長は、「34項目と多岐にわたるが、特にコロナ禍における不安定雇用・低賃金・生活困窮・子どもの貧困等、生活弱者の支援をお願いしたい」とあいさつしました。また、飯國永陸副会長(労働政策局長)から、保健所体制の充実について要望しました。その後、参加者で意見交換を行いました。

### ◆田中事務局長から4点の補強説明を実施◆

- ①コロナ禍における雇用対策、教育、交通、農業等の政策
- ②選挙における投票率向上と参議院合区の解消
- ③地域医療構想の合意形成
- ④災害発生時の避難の迅速化

### ◆平井県知事の発言要旨◆

感染による人権侵害の顕在化など『人権問題』としての捉えが必要である。全国的には職場内感染も拡がっており、PCR検査で早期発見することが事業継続となり職場の安全管理に繋がる。コロナはこれからが本番との危機感を共有し、暮らし難さが深刻化しないように連合鳥取とともに取り組んでいきたい。



今回の要請内容については、9月3日(木)、7日(月)に各担当部局との意見交換を行います。

## 戦後75年 二度と悲劇は繰り返さない！ －平和行動in広島(連合広島集会)で献花・献水－



連合は、毎年全国から多くの仲間が参加して開催している「平和行動in広島」、「平和行動in長崎」について、本年は新型コロナウイルス対策としてメッセージ等の動画配信によるWEB開催としました。

連合中国ブロックにおいては、連合広島が開催する「連合広島集会」に各県連合会長・事務局長が参加して原爆ドーム前で献花を行い、平和への祈りを捧げました。あわせて、水を求めて亡くなった人々に、全国の連合から寄せられた水も捧げました。



連合鳥取からは本川会長と田中事務局長が参加しました

## 南部町議会議員選挙(2020年10月18日投開票) 推薦決定

連合鳥取は、南部町議会議員選挙(10月13日告示・10月18日投開票)に下記の予定候補者を推薦決定し、「第9回執行委員会(8月17日開催)」で推薦決定書を手交しました。

長東さんからは、「モットーである『人を大切にする』活動を続けていく」との決意表明がありました。

組合員のみなさまはもとより、ご家族、ご友人、知人のみなさまからのご支援をよろしくお願いします。

長東 博信(ながつか ひろのぶ)さん(左)  
(68歳/1期/部落解放同盟)



## 若者をはじめとする人材流出を防ぎ 働く立場の弱い労働者に希望を!

# 792円

鳥取県最低賃金が10月2日より  
2円上乗せで改定されます

中央最低賃金審議会は、2020年度の地域別最低賃金額改定の目安を示しませんでした。コロナ禍による経済・雇用への影響等が理由ですが、併せて地域間格差の縮小を勘案した適切な審議を地方審議会に希望すると答申しました。

それを受け開催された「鳥取地方最低賃金審議会」では、労働者・使用者代表の各委員がそれぞれ主張して議論、公益代表委員が意見の歩み寄りを求めて調停した結果、現行790円から792円(+2円)への引き上げを全会一致で決め答申し、10月2日より改定されることが決定しました。

「わずか2円」と思われるかもしれません、求人募集の多くは10円単位で示されるため「実質800円」への道が開くことを期待します。

### <労働者代表委員の主張>

- 最低賃金で働く者の生活向上と、近隣県との地域格差是正のため「800円への引き上げ」を求める。
- コロナ禍で経営が苦しいのは分かるが、最低賃金近くで働く立場の弱い労働者に希望を与えるべき!

### <使用者代表委員の主張>

- 事業継承、継続が困難な使用者を考慮し「凍結」すべき。

## Information

\*詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。



ワークルルル検定に  
挑戦してみよう!

□検定名 ワーカルルル検定  
2020・秋

□検定日 2020年11月23日  
(月・祝日)

□日 程

受付/10時15分~  
初級検定/11時00分~  
11時45分

□場 所 白兎会館(鳥取市)

□定 員 30人

□受付期間<連合鳥取・組織内受付>

9月1日(火)~10月22日(木)

\*産別を通じて案内しています。

定員(30人)に達した場合、受付期間内でも募集を締め切ります。

□受検料 初級 2,900円

(税込、検定・WEB講習料)

\*検定に先立ち、労働法の基礎的仕組みを開設するWEB講習(60分)を実施しますので事前に受講してください。

\*産別を通じてお申込みいただいた受験者には、連合鳥取より、公式テキスト『ワーカルルル検定初級テキスト第3版』を贈呈します。



## 産別リレー



**全労金**  
におじゃまします

## 全労金(中国労働金庫労働組合鳥取支部)

産別である『全国労働金庫労働組合連合会(略称:全労金)』は、全国の労働金庫・関連会社および労働金庫協会・連合会で働く労働者を組合員とする労働組合で構成する連合会組織です。現在、13の金庫に13の単組、労金業態の中央機関である労金協会・連合会に1単組、合計14の単組で構成されています。中国労金労働組合はその一員であり、中国5県に5支部(島根・鳥取・岡山・広島・山口)、そのうち鳥取支部は3分会(鳥取・倉吉・米子)があります。

組織運動の方針としては、組織内の「運動の強化・統一・底上げ」を進めるとともに、労働組合の社会的役割の発揮のため、震災からの復興・再生に向けた取り組みを継続することとあわせて、自然災害に関わる取り組みを展開しています。また、職場においては、同じ働く仲間の夢を金融面からサポートさせていただいているいます。



次回は…JR総連をご紹介



## 湯原俊二 —緑肥の想い—

湯原さんのホームページもご覧ください

湯原俊二

検索

QRコードからも  
つながります▶



### 専守防衛の形骸化が懸念されます

安倍政権は、迎撃ミサイルシステム「イージスアショア」の配備を停止したので、その代わりに突如として敵基地攻撃能力の保有を言い出しました。敵基地攻撃能力の保有とは、弾道ミサイルの発射基地などを直接破壊できる能力を持つことです。

歴代自民党政権は、他の手段がない場合のやむを得ない必要最小限度の措置として、法理的には自衛の範囲内で可能だが日本は保有しないとしてきました。



想定されるのは北朝鮮です。北朝鮮のミサイルは、事前に察知されやすい発射前に液体燃料を注入し発射するやり方から固体燃料に進化し、その結果、瞬時に発射が可能になりました。また移動式の大型発射台で山林に隠しながら発射することも可能になりました。北朝鮮のミサイル拠点を把握し一斉に攻撃できなければ、残ったミサイルで反撃され日本は甚大な被害がでるでしょう。

今の自衛隊には、北朝鮮領土内の拠点を確実に把握する装備も予算もありません。拠点の把握や攻撃のために米軍との連携を深化させれば、日本の専守防衛の形骸化や憲法違反の可能性も出てきます。私は、専守防衛を堅持し、外交努力を尽くすべきと考えます。

### “ザ・議員”

## 福間 裕隆 鳥取県議会議員

鳥取刑務所を学習訪問 – 坂野議員とともに! –

「薬物依存症からの回復と社会復帰」をテーマの一つに選定して、9月議会での代表質問の準備に取り組んでいる坂野経三郎議員とともに、8月12日(水)、鳥取刑務所を訪問しました。刑務所での薬物脱却教育や、社会復帰をめざす実態を勉強させていただきました。鳥取刑務所の受刑者の36%が覚せい剤事犯だそうです。【2019(令和元)年12月時点】

アルコールに比べ、数倍も依存性が強いといわれる薬物依存。自分の居場所を探すうちに薬物に手を染めてしまっている若者。未成年層にも浸透が多く見受けられているといわれています。

一人間やめますかー という程の恐ろしさを持つ覚せい剤などの薬物のない社会を創ることの大切さを痛感しました。



坂野県議会議員と  
鳥取刑務所を訪問／福間県議会議員(右)

## 安達 卓是 米子市議会議員

今年の6月定例会で、「ひきこもり対応(1)」や「コロナ禍による障がい者就労事業所への支援(2)」などについて質(ただ)しました。

(担当部長の答弁)

(1)引きこもり対応について

今度の法改正で複雑化、複合化した支援ニーズに対応すべく、包括的な福祉サービスの提供体制を整備する観点で新たな措置が講じられ、「ひきこもり支援」では本市もしっかりと取り組むこととなった。本人や家族に寄り添いながら、時間をかけて支援する。

(2)就労支援事業所への支援について

4月頃から作業受注が減少している。米子市も「障害者優先調達法」に沿って、市のマスクや物品の仕分けなどの作業発注を行っている。

他の質問では、主に弓浜半島地域に発生する「害虫のヌカカ(千拓虫=地元での呼称)」対策について、その発生状況・被害状況・解決策についての内容でした。



6月定例会の様子

(ノンノン)  
戦争のことについて少しでも考えてもらいたい。



今年も夏がやってきた。特に今年の夏は暑いように感じる▼例年、夏、とりわけお盆になると戦争関連のテレビ番組や新聞の記事を目にする機会が多い。今年は終戦から75年の節目の年。私にとって戦争というものは身近ではないし、これまであまり深く考えたこともなかつた。しかしながら、戦争を経験した方や戦時中の記憶がある方は若くとも80歳を超える年齢となる中、私は戦争の悲惨さや体験を後世に伝えていくことが非常に大切だと思うようになつた▼今年のお盆に私の祖父から戦時の話を少し聞いた。祖父は終戦時中学1年生。満足な食料もなく、学校では勉強もさせてもらはず、工場で働いていたと言っていた。私が印象的だったのは、「学校でもっと勉強がしたかった」と言つてたことであつた▼若い世代が戦争の惨禍を忘れないためにも、毎年お盆の時期は平和や

てんじんじらさ



再生紙を使用しています